



吉野彰教授が 2019 年欧州発明家賞を受賞 日本人で 2 人目 2015 年に受賞した飯島澄男終身教授以来

電気自動車やスマートフォン、パソコンなどの電池に使われている「リチウムイオン電池」の開発者の吉野彰大学院理工学研究科教授（71）が、6月20日、欧州特許庁（European Patent Office、以下、EPO）主催の2019年欧州発明家賞「非ヨーロッパ諸国部門」を受賞しました。

受賞理由は「リチウムイオン電池の発明及び改良」です。6月20日、ウィーンで開かれた式典で発表されました。

本学では、カーボンナノチューブの発見者で文化勲章受章者の飯島澄男終身教授、湯田坂雅子特任教授らのグループが2015年、欧州発明家賞「非ヨーロッパ諸国部門」にノミネートされ、日本人で初めて受賞しています。

欧州発明家賞は、創造性と特異な才能により世界中の人の暮らしを向上させた、極めて優れた発明家をたたえる賞で、2006年から毎年、EPOによって授与されます。産業部門、研究部門、中小企業部門、非ヨーロッパ諸国部門と功労賞の5部門と、ポピュラープライズ（人気賞）で構成されます。

<小原章裕学長のコメント>

吉野彰教授の2019年欧州発明家賞「非ヨーロッパ諸国部門」受賞の報に接し、心からお祝いをします。カーボンナノチューブの発見者、飯島澄男終身教授らのグループが2015年に同部門で受賞して以来の快挙です。本学教員がこのような国際的な賞に浴することを喜ぶとともに、ワンランク上の大学を目指す本学にとって励みとなります。



吉野教授の 略歴

大阪府出身。1970年、京都大学工学部石油化学科卒業。1972年、同大学院工学研究科修士課程修了。同年、旭化成株式会社（旧旭化成工業株式会社）入社。同社電池材料事業開発室室長、顧問などを経て名誉フェロー。工学博士。電気化学専攻。

2004年、リチウムイオン電池開発の功績で紫綬褒章受章。2014年、全米技術アカデミーから「The Charles Stark Draper Prize（チャールズ・スターク・ドレイパー賞）」を受けました。同賞は「工学分野のノーベル賞」といわれ、2014年ノーベル物理学賞受賞者の赤崎勇終身教授・特別栄誉教授も2015年に受けました。

2017年7月から本学大学院理工学研究科教授。現在、大学院生に対して「エネルギー環境材料工学特論Ⅰ」を講じています（写真下）。2018年には、「日本版ノーベル賞」といわれる第34回 Japan Prize（日本国際賞）、第71回中日文化賞を受賞しました。